

オムロン (コード 6645)

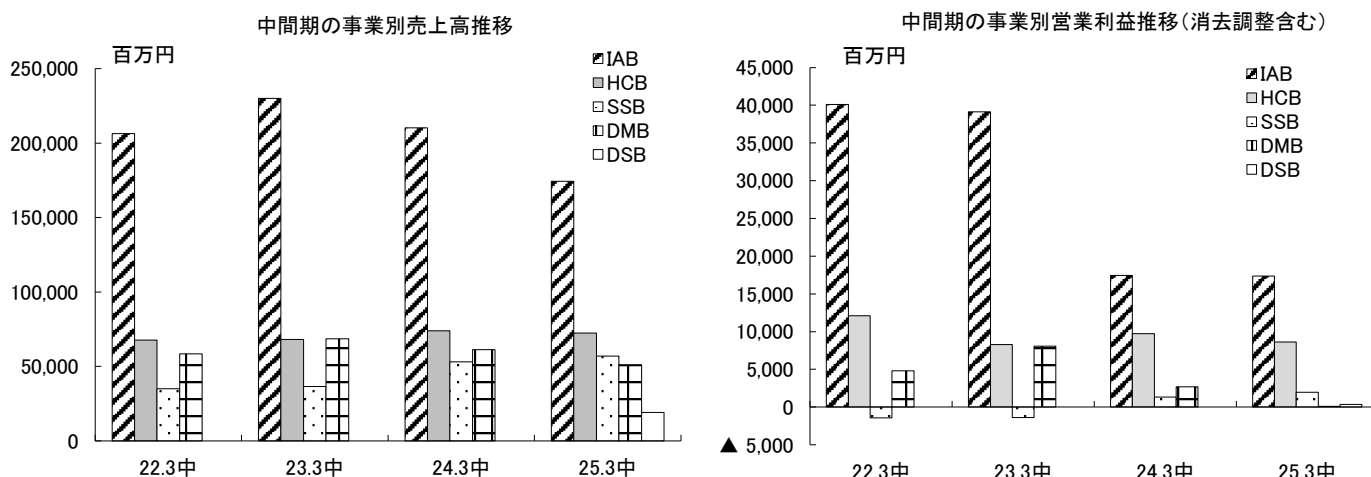
◆各決算期の中間期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	369,351	45,727	161.2	46.0	39,250	▲12,438	▲10,362	273,994
23.3	404,418	41,613	139.8	49.0	19,054	▲27,693	▲34,637	123,917
24.3	400,674	20,651	30.9	52.0	25,732	▲18,978	▲11,432	107,715
25.3	374,638	19,226	▲16.9	52.0	23,845	▲29,751	22,901	161,338

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	762,927	89,316	305.7	92.0	67,428	▲150,163	▲29,603	155,484
23.3	876,082	100,686	372.2	98.0	53,456	▲55,533	▲58,757	105,279
24.3	818,761	34,342	41.2	104.0	44,875	▲107,096	85,987	143,086
25.3予	805,000	52,000	55.9	104.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年3月期の中間期業績概況…25年3月期の中間期(24年4~9月)は、社会システム事業(SSB)が好調に推移した一方、それ以外の事業(当期より新規開示のDSBを除く)が減収減益となったことなどにより、売上高、営業利益とも前年同期に比べて約7%減った。

当期の業績は、売上高3,746億3,800万円(前年同期比6.5%減)、営業利益192億2,600万円(同6.9%減)、税引前中間純損失3億3,600万円(前年同期は249億9,400万円の黒字)、同社株主に帰属する中間純損失33億1,800万円(同60億8,000万円の黒字)となった。人員数の最適化など構造改革費用として約210億円を計上したことなどにより、税引前中間純損益及び同社株主に帰属する中間純損益は赤字となった。

セグメント別の売上高は、IAB(制御機器事業)1,745億円(前年同期比17.1%減)、HCB(ヘルスケア事業)725億円(同2.0%減)、SSB569億円(同7.0%増)、DMB(電子部品事業)511億円(同16.5%減)、DSB(データソリューション事業)191億円。また、セグメント別の営業利益は、IAB174億円(同0.4%減)、HCB86億円(同11.6%減)、SSB20億円(同47.9%増)、DMB1億円(同96.4%減)、DSB3億円となった(以上、簡略化のため億円単位で表示)。IABについては、中国での太陽光発電関連投資や二次電池の需要停滞に加え、高い受注残に支えられていた前年同期からの反動により、売上高は減少したが、売上総利益率改善や固定費圧縮効果で

セグメント利益はほぼ前年同期並みになった。HCBでは、中国のマクロ経済減速による消費者の購買意欲低下や、前年の呼吸器疾患特需の反動による酸素濃縮器・ネブライザなどの需要減少により、減収減益となった。SSBにおいては、エネルギーソリューション事業では需要が回復傾向で堅調に推移。また、駅務システム事業では鉄道各社の投資需要ならびにマネジメント・サービスソリューション事業での店舗設備の保守サービス需要が好調に推移した。DMBについては、民生業界向け部品、自動車向け部品とも需要は低調に推移し、大幅な減収減益となった。DSBについては、JMDC社における契約健康保険組合数、データ利活用先の製薬企業および保険会社との取引、遠隔読影サービス利用の医療機関数の拡大により、堅調に推移した。

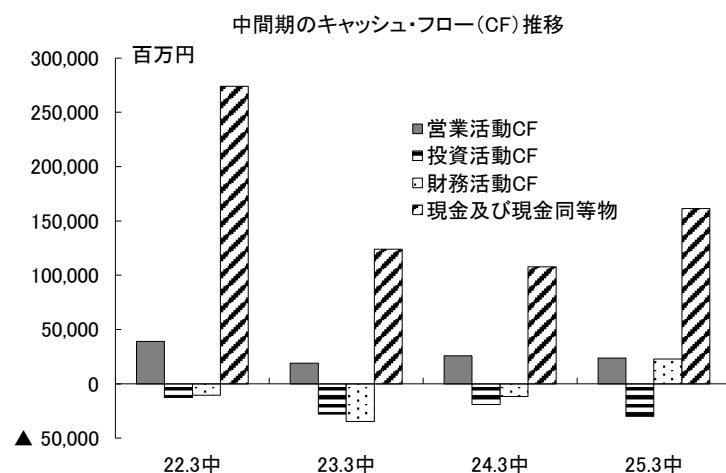
キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末における現金及び現金同等物残高は1,613億3,800万円（前年同期末比49.8%

増）となった。営業活動CFは、中間純損失23億3,700万円（前年同期は64億7,200万円の黒字）、受取手形及び売掛金の減少額338億8,100万円（同7.3%減）、棚卸資産の増加額107億3,200万円（同82.8%増）、支払手形及び買掛金・未払金の減少額61億7,900万円（同53.4%減）などにより、238億4,500万円の収入（同7.3%減）となった。投資活動CFは、資本的支出221億8,000万円（同17.9%増）、事業・会社の買収（現金取得額との純額）45億4,000万円（同1,140.4%増）などにより、297億5,100

万円の支出（同56.8%増）に。財務活動CFは、親会社への支払配当金102億3,600万円（同6.1%増）、短期債務の増加（純額）263億1,300万円（前年同期は22億1,400万円の減少）、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額84億800万円（同短期借入れによる収入10億8,000万円）などにより、229億100万円の収入（同114億3,200万円の支出）となった。

25年3月期の通期業績見通し…今期の通期業績については、24年5月8日時点での会社側発表値から修正され、売上高8,050億円（前期比1.7%減。修正前8,250億円）、営業利益520億円（同51.4%増。修正前490億円）、税引前当期純利益260億円（同25.6%減。修正前210億円）、同社株主に帰属する当期純利益110億円（同35.7%増。修正前85億円）の見通し。

セグメント別の売上高予想（消去調整他が10億円）は、IAB3,580億円（同9.0%減。修正前3,550億円）、HCB1,520億円（同1.5%増。修正前1,610億円）、SSB1,460億円（同3.1%増。修正前1,545億円）、DMB1,050億円（同8.2%減。修正前1,100億円）、DSB430億円（修正無し）。また、セグメント別の営業利益予想（消去調整他が240億円のマイナス）は、IAB360億円（同67.8%増。修正前275億円）、HCB185億円（同0.2%増。修正前220億円）、SSB165億円（同17.7%増。修正前170億円）、DMB15億円（同52.3%減。修正前40億円）、DSB35億円（修正前30億円）となっている。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などにに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。